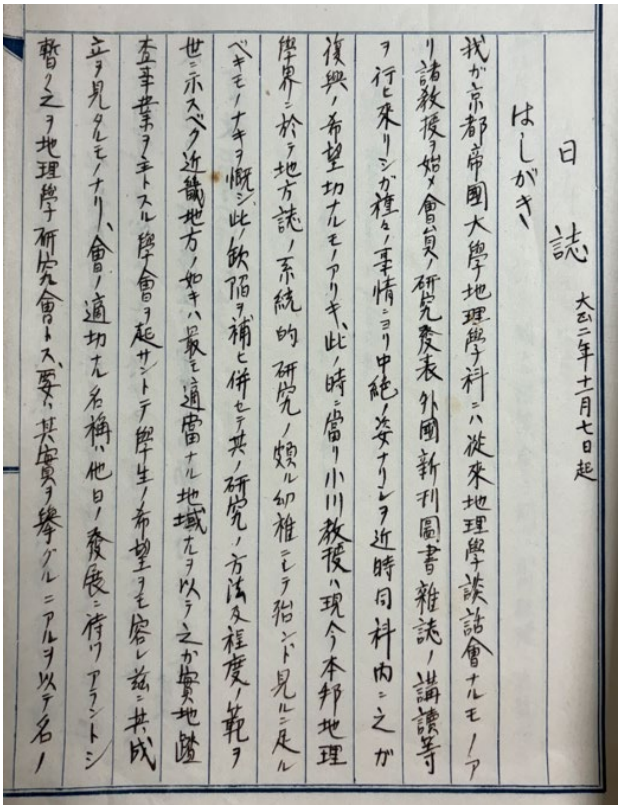


京都大学地理学談話会

会 報

第 35 号



[目次]

寄稿

退官後 21 年（石原 潤）	1
I am what I am because of you	
～ハワイに家族の歴史をたずねて～（岩崎 しのぶ）	3
日本における航空交通ネットワークの地理学的分析	
～地方空港の可能性と現実～（渡邊 一輝）	6

2023 年度活動報告

秋季談話会（OB 交流会）	9
春季談話会（論文発表会）	9

研究室便り

地理学専修の動静	10
2023 年度卒業生・修了生の進路	10
新メンバーの自己紹介	11
大学院生らの研究状況	13
2024 年度講義題目	14
会員からの寄贈図書	14

事務局から

2023 年度会計報告	16
会費納入のお願い	16
訃報	16
編集後記	17

（表紙）「地理学研究会記録甲 日誌」（地理学専修所蔵資料）の冒頭ページ。大正 2 年（1913）の時点で、「地理学談話会」の活動が停滞していたために、その「復興」が検討されたことを物語る。小川琢治教授の考えを踏まえ、学会ないし研究会としての発展が期待されていた。

退官後 21 年

石原 潤*

この 3 月で、私は京大退官後満 21 年になりました。京大在職が 7 年間でしたから、その 3 倍を過ごした訳ですが、この長い「退官後」をどう過ごしたかをご報告し、老後の過ごし方への「参考」ないし「反面教師」にいただけたらと思います。

最初の 6 年間は順調でした。幸い私立の奈良大学に職を得て、京大時代の 2 倍の授業負担と数倍の指導生、さらに通信教育の添削にも対処出来ました。研究活動でも、科研による中国での共同調査や個人調査を継続し、学界活動では、学術会議会員、日本地理学会会長、教科書検定委員などで、東京出張を繰り返していました。健康には何の心配もなかったのですが、ただ 2 年目からの図書館長、4 年目からの文学部長の負担が、少しずつ応えてはありました。

7 年目に大きな転機がやって来ました。学長選挙でわずか 1 票差で当選してしまったからです。就任には躊躇しましたが、恩師の西村睦男先生や水津一朗先生が、かつて全うされたポストですから、断るわけにも行かず、お受けすることにしました。任期は 1 期目が 4 年、2 期目は 2 年で、合計 6 年に及びました。私立大学の学長は、難しいポストです。大学の教職員からは、その代表とし

て経営側に立ち向かうことを期待され、経営側（理事会・評議会側）からは、その意向に教職員を従わせることを要求されます。両者は、経営方針、将来構想、人事や財務など、多くの面に対立があります。加えて、多様な集団からなる学園では、さまざまな不祥事やセクハラ・パワハラなどが起り、学長はそれら全てに対処せねばなりません。さらに、最も困難な課題は、学生集めです。小規模大学では、いわゆる「定員割れ」は死活問題で、年数回のオープンキャンパス、十数回の各種入試、出前授業や高校訪問と、学長はその先頭に立って頑張らねばなりません。私は、それ以前ほとんど経験したことなかった、これら全てのことに疲れ果て、研究に割く余力は、ほとんど残っておりませんでした。

奈良大学長を任期満了で退職したのは、74 歳の 3 月、遅い定年がやっとやって来た感じでした。奈良大が申請してくれた叙勲は、翌年 5 月に実現し、私と家内は、皇居で数千人の同輩と並んで、天皇からのねぎらいの言葉を受けました。その後、京大の元院生が祝賀会を開いてくれたのは、嬉しかったです。ただ、私にはやり残した仕事がありました。本来は、70 歳までに完成させよ

* 京都大学名誉教授、1962 年卒業、1964 年修士

うと思っていた、ライフワークとしての中国の市研究の総仕上げです。研究書1冊の出版がその目標で、そのためには市の発達史に関する部分と、地域差に関する部分に大幅な追加が必要でした。そこで、5カ年計画を立て、79歳までの原稿の完成、80歳までの出版を目標に、京大の人文科研の現代中国研究センターへ日参し、1600冊ほどの現代地方志を読み込み、不足分は、国会図書館関西館や日文研図書室で補いました。時間にしばられずマイペースで仕事が出来たことは、老人にとっては有難いことでした。お陰様で、拙著『中国の市—発達史・地域差・実態—』（451頁）は、学振の出版助成をいただき、80歳になった2019年11月に、ナカニシヤ出版から出版できました。

さて、それ以降、80歳代をどう生きて行こうか。「後期高齢者」とは良く言ったもので、75歳を越えた頃から、私の身体にも老化現象が現れ始め、80歳には隠し切れないものとなりました。まず難聴が酷く、補聴器

が必要になり、その後、白内障、嚥下障害、夜間頻尿、脚のふらつきなどが、一斉に襲ってきました。そこで、掛かりつけ医の勧めもあり、介護の認定を受け、今は「要支援2」との評価で、ヘルパーさんに来てもらい、デイ・サービスの体操教室に通っています。子供達には迷惑を掛けず、公的介護の援助を受けて、寿命を全うしたいというのが、今の思いです。コロナ禍の時期は、外出も減りましたので、永年にわたり貯まった大量の書類を処分し、次いで蔵書約7千冊のリストを作り、お世話になった大学等への寄贈を進めています。京大には、240冊ほど受け入れていただきました。学会のリモート開催には、孤立した老人故、うまく対処出来ませんでした。対面開催が再開した今は、近くで開かれる場合には、顔を出したりしています。また、中国の動向のウォッチングなど、知的好奇心の維持には心掛けています。どこかで見かけられたら、声を掛けていただければ幸いです。

~~~~~



石原先生よりご寄贈いただいた中国関係図書の一部

## I am what I am because of you

～ハワイに家族の歴史をたずねて～

岩崎 しのぶ\*

私は父方の先祖について、ほとんど何も知らずにいた。早くに亡くなった祖父の写真は見たこともなく、曾祖父に至っては名前すら怪しかった。父も多くを語らず、深く尋ねてはならない雰囲気があった。それが大きく変わったのは、2022年の秋、父方のルーツは熊本にあるとようやく知った時からだ。

数年前から日系カナダ人に興味を持ち始めた私は、その中で米国の家系図サイト Ancestry.com を知った。国勢調査・乗船者名簿・出生死亡届など、デジタルで公開されている各種記録がデータベース化されている。熊本は移民県だからと、何となく面白半分、出来心で Ancestry.com で曾祖父の名前「岩崎米吉」を検索すると、生年に矛盾のない熊本出身の「イワサキ・ヨネキチ」のハワイへの渡航記録がヒットし、仰天した。そんな話は聞いたことがない。恐る恐る父に確認すると、曾祖父母がハワイ移民だと渋々認めた。

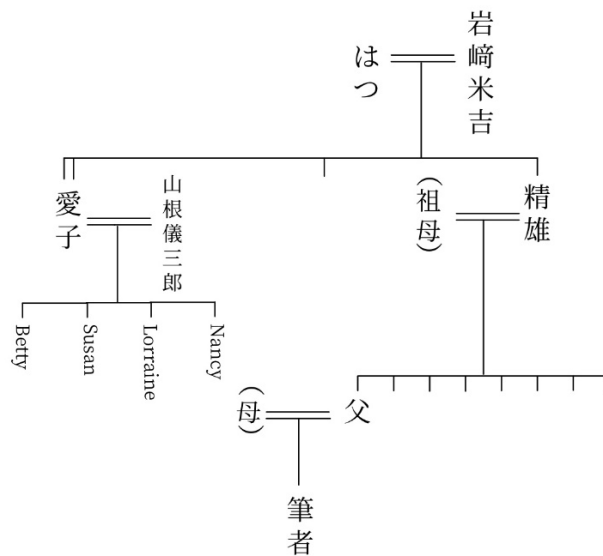
それ以来、Ancestry.com で探せるものに加え、『日布時事布哇年鑑』『布哇日本人年鑑』などの資料を当たった。米国の国立公文書記録管理局から Alien Case Files も取り寄せた。その結果明らかになったのは、曾祖父岩崎米吉は1907年、曾祖母はつは1913年

に、10代半ばの息子精雄（筆者祖父）を熊本に残して渡布し、ハワイ島コナでコーヒー栽培に従事したことだった。さらに、1920年の国勢調査では夫婦のみの世帯だった岩崎家に、1930年になると16歳の娘「アイコ」がいる。1938年6月の邦字紙『コナ反響』に「岩崎愛子」の結婚記事を発見し、その夫「山根儀三郎」から辿ると、その娘四人が70～80代で健在であることも判明した。

1959年にコナで亡くなった米吉の墓の所在が気になった。1955年の『布哇タイムス』に掲載されたコナ本願寺敬老会の名簿に米吉とはつの名を見つけ、Find a Grave というサイトでコナ本願寺の墓を検索してみたが、それらしきものは見つからない。そもそも墓はないのかと諦めかけたが、一縷の望みを託して、地理学教室の同期である上杉和央先生（京都府立大）にお願いして、コナの日本人墓地の悉皆調査をされた平川亨先生（明治大）に繋いでいただいた。平川先生が送ってくださったのは、まさにコナ本願寺にある米吉の墓の写真であった。やはりあった、という感激と共に、その墓が、長年日本の子孫が忘れていないにしては綺麗に保たれているのに気付いた。手入れをしてくれているのは愛子の娘たちだと確信し、平川先生に四女 Betty さんの連絡先を伺っ

---

\* 1999年卒業，2001年修士



家系図

てメールを送ったところ、お返事をいただくことができた。その後、西本願寺での慶讃法要のために来日した Betty さん夫妻との対面を経て、思い切ってハワイに飛んだのが、2023 年 7 月である。

ホノルルで愛子の長女 Nancy さん・次女 Lorraine さん、コナで三女 Susan さん・四女 Betty さんを訪ねた。愛子は 6 歳で熊本出身の両親を失い、11 歳で（ハワイには）子のない岩崎家の養女となった。養親との関係は決して円満ではなかったが、愛子は結婚後も夫や娘たちを伴って、定期的に米吉とはつを訪問した。四姉妹の覚えている米吉は温厚な好々爺、一方はつはきつい性格のヘビースモーカーで、おはぎ作りが得意だった。

Kona Coffee Living History Farm は、元は熊本出身の内田家の農園で、岩崎家はそ

の向かいにあった。愛子は当初、内田家への引き取りが検討されていたが叶わず、岩崎家に来たという。曾祖父母もここにお邪魔したのだろうかなどと想像しながら、内田家の茶の間に座ってみた。曾祖父母の外国人登録書類に証人として署名を残している眞子金蔵が 1917 年に創業した Manago Hotel にも滞在した。金蔵の曾孫にあたる女性がホテルを切り盛りしており、「曾孫同士がこうして会えるなんて奇跡」と喜んでくれた。写真で見た米吉の墓にもお参りできた。血の繋がった子孫がこれまで誰も墓参りに来なかったことを、心の中で詫びた。

米吉に先立たれたはつは、最晩年に米国籍を取得しながら、大阪にいた息子の精雄を頼って突然帰国し、そのまま亡くなった。それは精雄一家に大混乱と軋轢を引き起こし、今日まで影を落とす痛ましい家族の記

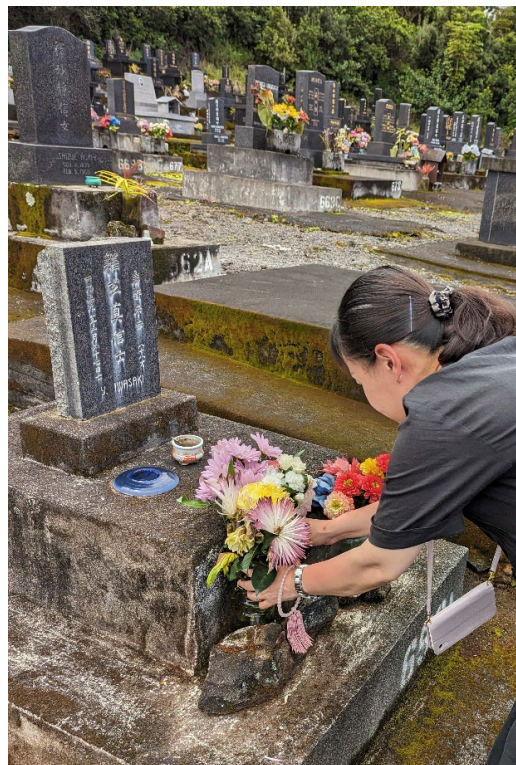
憶となったと思われる。1930年代以降特に、コナの日本人コーヒー農家の経営は厳しく、幼い子どもでも貴重な労働力として扱われたという。ならばなぜ米吉・はつは実子をコナに呼ばなかったのか釈然としない。だが、もし精雄も渡布していたら、父も私も生まれていなかった。曾祖父母の不合理にも見える数々の選択、それに大きく左右され、過酷だったであろう祖父の生涯、それを見て育った父の複雑な感情、そうした積み重なるの末に自分があることを、黒い溶岩の大地を踏み、眼下に広がるケアラケクア湾を眺めながら考えた。ホノルルのハワイ日本文化センターで見た、「I am what I am because of you」という言葉が胸に迫った。

「この歳になって日本の家族が増えた」と私を大歓迎してくれたハワイの四姉妹との交流は、有難いことにその後も続いている。私の訪問は次女 Lorraine さんの筆によって『The Hawai'i Herald』のエッセイ記事となり、四姉妹のもとには多くの感想も寄せられたと聞いた。

今回、「ハワイの家族」に辿り着けたのは、今は違う分野で働き、地理学に何の恩返しもできていない私に、快くご助力くださった地理学の諸先生方のお陰で、本当に感謝している。在学中に自分の家族の歴史を知っていれば、さらに多くの先生方から学ぶこともできただろうに、と思わなくもないが、このタイミングにも何らかの意味があると信じて、今後も家族の歴史と、それにまつわるハワイの様々な事象を、細々とでも学び続けていきたい。



Manago Hotel から見たケアラケクア湾



墓参りの筆者

## 日本における航空交通ネットワークの地理学的分析

### ～地方空港の可能性と現実～

渡邊 一輝\*

公共交通と聞いて何を思い浮かべるだろうか。おそらく鉄道やバスが浮かぶだろう。地理学においてもバスや鉄道、乗合タクシー等を中心に公共交通の研究が多く蓄積されてきた。ただ、ふと立ち止まってみると、公共交通は地上に限らない。海や川には船が走り、空には航空機が飛んでいる。そしてこれらもまた、我々の生活に密接な関わりを持っている。しかし地理学において、こうした分野の研究はあまりなされてこなかった。その理由として、航空機や船の地表を離れるイメージが「地表面」を対象とする地理学に馴染みにくく感じられてきた点、多くの人にとってはこれらの利用が非日常的な場面に限られ、研究対象として扱われる機会が少なかった点が挙げられる。

2023 年の訪日外国人観光客数は 2500 万人を超え、コロナ禍前の 2019 年(3188 万人)の 8 割以上に回復した。政府は観光立国推進基本計画(第 4 次)においてインバウンド需要のさらなる取り込みを目指しており、これを受けて国際空港の機能強化が進められている。

2024 年 5 月時点で日本には 97 の空港が存在する。1945 年の終戦後、1951 年に日本の民間航空産業が再開されて以降、日本の航空交通は急速に拡大を続け、現在では大

半の都道府県に空港が立地する「一県一空港」体制が確立された。航空地理学においては、日本の航空交通ネットワークがハブ&スポークシステム(HASS)であると指摘され、ハブ空港の役割に焦点が当てられてきた。ただ、利用者の不足などで存続の危機に直面しているのはスポーク末端の地方空港であり、今後この航空網は、人口・経済のさらなる一極集中化、人口減少・需要縮小によって、再編を迫られる可能性が高い。そのため、各地の空港の現状を俯瞰的に把握することとした。

まず、各空港の利用実態を反映したデータを収集した。使用したデータは、国内線の就航地数、国内線・国際線利用者数、国内線・国際線貨物量、運用時間、滑走路本数と容量、就航会社数(国内線)、就航機の規模・便数(国内線)、就航地数と便数(国際線)、60 分圏域の人口・外国人人口の割合・年間販売額(卸売業・小売業)、60-90 分圏域の人口・年間販売額(卸売業・小売業)、空港の利用目的(仕事・観光・私用)、アクセス手段(公共交通機関・自家用車等)である(JTB 時刻表(2023.6)、国土交通省航空局「空港管理状況調書」・「国際線就航状況」・「航空旅客動態調査」(2019)、2023 年 11 月版 AIP、岩見・渡邊(2016)、航空各社ホ

---

\* 2024 年卒業

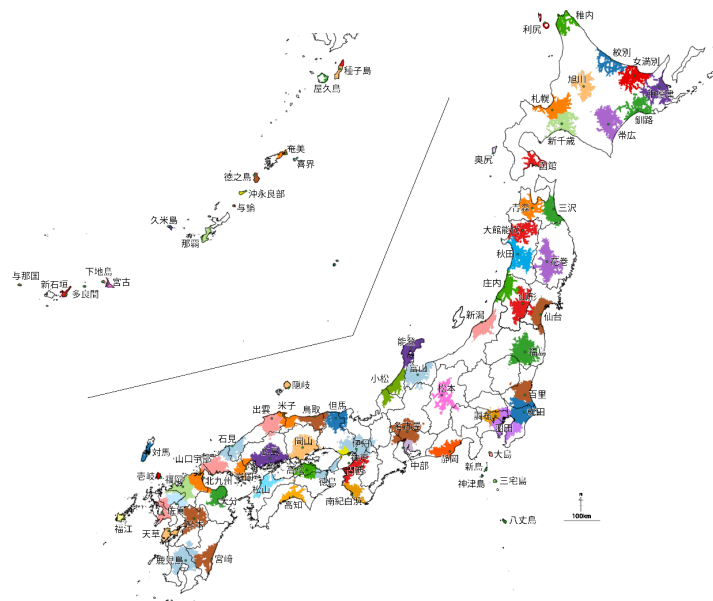


図1 空港別 60 分圏域図

総合交通分析システム（NITAS）を用いて筆者作成。

ームページ，総合交通分析システム（NITAS），令和2年国勢調査，平成26年商業統計，による）。

併せて各空港から鉄道や車を用いて60分以内に到達可能な地域を算出し，各空港後背地の人口や経済規模を算出した(図1)。次に，それらを基にクラスター分析を行い，定期便が就航している79空港の類型化を行った。空港の利用者数等の実績を示すデータに加え，圏域人口や経済規模等を含めることで立地特性等のポテンシャルを考慮した。分析の結果，以下の8つのクラスターが生成された(図2)。

Cluster 1： 拠点空港①（羽田）

Cluster 2： 拠点空港②（新千歳，中部，福岡，那覇）

Cluster 3： 拠点空港③（伊丹）

Cluster 4： 対外拠点空港（成田，関西）

Cluster 5： 地方空港①（女満別，青森，岡山，高知，長崎，鹿児島など）

Cluster 6： 地方空港②（福島，茨城，静岡，松本，名古屋）

Cluster 7： 地方小規模空港①（山形，能登，南紀白浜，新石垣など）

Cluster 8： 地方小規模空港②（島嶼部等）（奥尻，稚内，天草，南大東など）

HASS のハブである羽田空港，副次的ハブの伊丹空港，それらと各地方とを結ぶ Cluster 2 の空港群が主要幹線を構成していた。また，対外拠点では Cluster 4 の2空港が大きな役割を担っていた。Cluster 5 は中国・四国・九州地方に特に多く，28空港のうち25空港で Cluster 1 と最も強く結びついていた。Cluster 6 は Cluster 1 と地理的距離が近く羽田便が設定されていない。新幹線等の地上アクセス手段に航空需要が吸収され，距離の離れたその他のハブとの間

に需要を見出さざるを得なかった。Cluster 7 は概して路線規模が小さく、地上アクセスが不便で後背地の人口・経済規模が小さかった。定期旅客便が一日に数便しかない空港も多い。Cluster 8 のうち島嶼部の空港では、その地域の地方ハブである Cluster 2, 5 への利用者が多いことに加え、Cluster 7, 8 と小規模空港同士でリージョナルな結びつきを強める例もみられた。Cluster 8 のうち本土の空港においては一部を除き Cluster 1 への旅客が最多で、他のクラスター同様に首都圏と地方とをつないでいた。

以上から、日本の航空交通は Cluster 1 を中心とする HASS と下位クラスター同士のローカルネットワークにより構成され、価格や利便性、高速性の観点で高速鉄道と競合していた。航空交通の長所の一つは柔軟な目的地設定が可能な点にあり、将来的にリニア中央新幹線によって現状の HASS に変化が生じれば、航空交通がよりリージョナルな小規模路線に活路を見出さざるを得なくなる可能性も指摘できる。

地理学において航空交通の研究は多くはなされてこなかったが、航空機の飛行にあたり地表には空港が必要であり、地表を離れても空は空域によって三次元的に区分されている。よってこの分野は地理学とも密接な関わりを持っており、今後地理学的側面からのより一層の研究が待たれる。拙いものではあるが、本研究が今後の航空地理学の発展に寄与することができれば幸いである。

なお本研究に際し、国土交通省の総合交通分析システム(NITAS)を利用しました。ここに付記して謝意を表します。

(2023 年度卒業論文要旨)

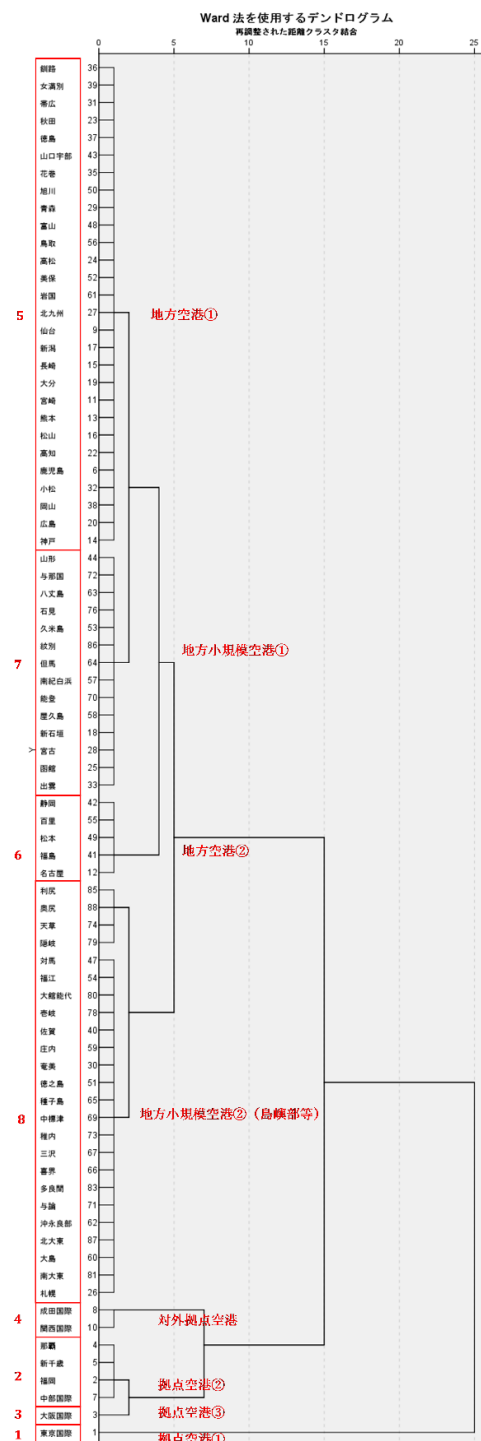


図2 各空港のデンドログラムとクラスター

## 2023 年度活動報告

### ■秋季談話会（OB 交流会）

2023 年度の秋季の談話会として、11 月 11 日（土）に OB 交流会を対面（地理学研究室・実習室）／オンラインのハイブリッド形式で開催しました。コロナ禍のため、対面での開催は 2019 年以来のことで、4 年振りとなります。

卒業生からの話題提供として、粉川春幸さん（2019 年修士，アドソル日進）、大塚俊介さん（2007 年卒業，三鷹市役所）、柴田陽一さん（2006 年修士，愛知県立大学）より、近況報告や在校時の思い出について、お話いただきました。話題提供の後はグループにわかれ、またグループを入れ替えながら、交流を深めました。話題提供者との交流の後、総会を開催し、会務報告（会計報告を含む）ならびに本会規約の検討を行いました。

幹事をつとめてくださった在校生の皆さん（博士後期課程：柴田将吾さん，修士課程：石川聡一郎さん，倉田瑞希さん）に，お礼申し上げます。

#### □総会議事録

日時 2023 年 11 月 11 日（土）16:20～16:40  
会場 京都大学文学研究科地理学実習室（ハイブリッド開催）

参加者 20 名（うちオンライン 8 名）

#### 議事

1. 会務報告 2022 年秋季談話会以降の 1 年間の会務が報告された。
2. 決算報告 2022 年度の会計報告がなされた。
3. 規約について 新しい規約案が提示され、

継続して検討を進めることとした。

### ■春季談話会（論文発表会）

卒論・修論発表会は、2 月 3 日（土）に対面（地理学研究室・実習室）／オンラインのハイブリッド形式で開催しました。卒業論文 22 名，修士論文 6 名の発表が行われました。発表数が多いため，発表会場は実習室と研究室の 2 つに分けて実施しました。

司会や時計係をつとめてくださった在学生の皆さん（博士後期課程：柴田将吾さん，堀川泉さん，修士課程：池田雄士さん，小林夕莉さん，宰川玲さん，信清清通さん）に，お礼申し上げます。

論文発表会の後，総会を開催し，会務報告ならびに本会規約の検討を行いました。

終了後，地理学実習室にて，ささやかながら予餞会を開催し，卒業生・修了生の門出を祝いました。

#### □総会議事録

日時 2024 年 2 月 3 日（土）17:10～17:30  
会場 京都大学文学研究科地理学実習室（ハイブリッド開催）

参加者 15 名（うちオンライン 1 名）

#### 議事

1. 会務報告 2022 年秋季談話会以降の 1 年間の会務が報告された。
2. 規約について 新しい規約案の修正案が提示され、継続して検討を進めることとした。

## 研究室便り

### ■地理学専修の動静

本年度（2024 年度）の教室スタッフは、昨年と同じく、米家泰作教授（専修主任）、埴淵知哉准教授、杉江あい講師、ならびに三上純子さん（事務補佐）が務めています。

昨年度末（2023 年 3 月）には 28 名の学部卒業生と 6 名の修士修了生を送り出しました。本年度（2023 年 4 月現在）は、博士後期課程 3 名、修士課程 9 名、4 回生 28 名、3 回生 22 名が在籍しています。

2023 年度の実習旅行は、10 月 23 日から 26 日にかけて、新潟県糸魚川市で実施しました。3 回生 7 名、2 回生 13 名が参加しました。



えちごトキめき鉄道「筒石駅」付近で巡検



現地でミーティング（糸魚川ヒスイ王国館）

### ■2023 年度卒業生・修了生の進路

#### □学部

青木 英太郎 東京海上日動火災保険株式会社

有馬 楓 株式会社南日本新聞社

安藤 智哉 独立行政法人都市再生機構

磯邊 穰 株式会社システムアンサー

市川 玉織 一般社団法人共同通信社

岩岡 侑汰 関西電力株式会社

岡田 太郎 三浦工業株式会社

岡田 陸太郎 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科（修士課程）

片桐 潮士 京都大学文学研究科（修士課程）

越智 隼大 近鉄グループホールディングス株式会社

佐藤 壮之介 BiBi

高原 佳穂 京都大学文学研究科（修士課程）

中野 颯太 株式会社日本経済新聞社

原川 優羽紀 岐阜県庁

福山 一茂 京都大学文学研究科（修士課程）

堀 碩信 株式会社 delta

松本 弥 株式会社福井

村上 真優子 株式会社 baton

山崎 悠太 東京都立大学都市環境科学研究科（修士課程）

山本 泰輝 KDDI 株式会社

吉田 巖嗣 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科

#### □大学院

石川 聡一郎 外務省

倉田 瑞希 株式会社 NTT ドコモ

小池 野々香 INCLUSIVE 株式会社

重永 瞬 京都大学文学研究科（博士課程）  
鈴木 洋太郎 京都市立堀川高等学校  
※掲載に同意いただいた方のみご紹介しています。

#### ■新メンバーの自己紹介

2024年4月から新しく地理学専修に所属された皆さんの自己紹介です。

青田 朗真 こんにちは。3回生の青田朗真です。出身は東京です。趣味は旅行のときに知らない街を歩いたり、現地のスーパーマーケットをまわったりすることです。どうぞよろしくお願いします。

荒谷 駿介 荒谷駿介と申します。出身は京都市内です。サークルではアコースティックギターを演奏しています。高校地理未履修ですが幼少期より地図が大好きで、日本中どこにいても大抵、方角を当てることができます。よろしくお願いします。

石井 晃遥 3回生の石井晃遥です。神奈川県川崎市出身です。高校生の頃から様々な町を訪れ散策するのが好きで地理学専修を選びました。地理学の中では、地域における防災・減災に興味があります。趣味はスポーツ観戦（主に野球）です。よろしくお願いします。

井原 可怜 3回生の井原可怜です。小学生から剣道をしていましたが大学でテニスを始めました。地理学の中なかでは農業や文化、健康に興味があります。高校の地理が好きでしたが苦手だったのでしっかり学びたいです。よろしくお願いします。

岩下 隼人 地理学研究室に所属しました岩下隼人と申します。東南アジアやアフリカなど、いわゆる発展途上国での都市づくりやインフラ、衛生環境などに興味

を持っています。関心分野が多種多様な環境で刺激をもらいつつ勉強に励みたいと思います。お願い致します。

内田 亮介 神奈川県相模原市出身の内田亮介です。鉄道をはじめとした交通全般や、日本の都市の成り立ちや構造について、あるいは地域の文化と人々の暮らしに興味があります。長期休みには日本各地に出向いています。実習のフィールドワークが楽しみです。よろしくお願いします。

勝部 真衣 勝部真衣と申します。出身は東京都ですが、以前から京都の土地に興味や憧れがあり、観光地理という分野を知ったことをきっかけに地理学専修を選びました。部活は、アメフト部でマネージャーをしています。2年間どうぞよろしくお願いします。

河野 桃衣 初めまして。3回生の河野桃衣と申します。東京都町田市出身です。サークルは、中学から続けたテニスをしています。また、鉄道や船旅が好きで、18きっぷシーズンはいつも忙しく過ごしています。地理学では地方創生や交通、農業などに興味があります。よろしくお願いします！

岸本 優成 新三回生の岸本優成です。今年度より地理学専修でお世話になります。趣味で文化財の複製を買い集め、よく持ち歩いているので『肥前国風土記』や『類聚国史』などの冊子や巻物を手にしているのがいけば十中八九私だと思っています。よろしくお願いいたします。

古賀 聖悠 3回生の古賀聖悠です。滋賀県大津市出身です。過疎地域の鉄道・バスなどの交通網と地理との関わりに興味があ

ります。趣味は、公共交通を利用した旅行やバス停の訪問です。毎朝、家の窓から琵琶湖の朝焼けを眺めるのが好きです。よろしくお願いします。

酒井 紗穂乃 酒井紗穂乃（さほの）です。岡山県岡山市出身です。一時期、野生の犬と猿ときじが出るほどの田舎に住んでいました。中高はダンス部、大学では放送局に所属しています。民族の文化や気候、地形に興味があり地理学を専攻しました。よろしくお願いします！

高橋 公平 3回生の高橋公平です。京都府京都市出身です。趣味は音楽を聴くこと、スポーツ観戦、旅行です。スポーツは野球とバスケットボールを見ていて、特に阪神タイガースを応援しています。皆さんと話すのが楽しみです。これからよろしくお願いします。

滝野 智也 新3回生の滝野です。今関心のあるテーマは経済地理学、特に産業集積や企業立地です。立地と収益の関係を、ある程度現実に沿って数値化してみたいと考えています。まだまだ基礎を勉強中ですが、頑張ります。よろしくお願いします。

土山 悠太郎 学部新7回生の土山悠太郎（つちやまゆうたろう）と申します。現在休学中ですが、今回ご厚意で会報に自己紹介を載せていただくことになりました。よろしくお願いします。

中山 璃旺 3回生の中山璃旺です。出身は広島県広島市です。趣味は旅行で、知らない町にふらっと遊びに行くのがとても好きです。最近では友人とタイに行ってきました。これからよろしくお願いいたします。

永嶋 弓芽 文学部三回生の永嶋弓芽です。サークルは、民族舞踊研究会としろるに所属しています。歴史地理学や都市地理学に興味があり地理学を専攻しました。よろしくお願いします。

西堀 太朗 3回生の西堀太朗と申します。よろしくお願いします。滋賀県は長浜に生まれ、彦根の高校に通い、京都に移って来ました。それもあって観光都市を地理学的にまなざしたいと考えます。またアジアの文化、特に食文化にも地理学的関心があります。

三浦 聖太郎 変なものの食べ歩くのが趣味です。最近のあたりはベトナムで食べたゴカイのハンバーグ。仏教思想、新興宗教、現代アートに興味有り。演劇やったり山登ったり鹿捌いたりしてます。今年の夏は利尻島で民泊経営してるので遊びに来てください。来年から勉強します。

光本 凌大 新3回生の光本凌大です。大阪府交野市出身で、小学5年生まで寝屋川市に住んでいました。地図学・GIS・統計地図・地図表現・デザインあたりに関心があります。最近京大構内の屋外休憩所マップを作ってみました。旅行・音楽・写真が好きです。よろしくお願いします。

村岡 奈悟 新三回生の村岡奈悟です。出身は名古屋、本籍地は山形です。海外旅行が生き甲斐で、好きな都市はプラハ、行ってみたい都市はストラスブールです。地域や国ごとに違いがあって、地形や気候、そして人が様々に関与してその違いが形成されていくことに興味を感じて地理学専修を選びました。よろしくお願いします。

矢島 隼人 東京都と神奈川県の間あたりから来ました。ザトウムシ以外の生物が

好きです。植物の勉強をしています。旅行では新幹線と高速バスとビジネスホテルを嫌い、フェリー、鈍行、サイクリング、ユースホテルなどを愛しています。これからよろしくお願いします。

安原 悠晴 今年度より地理学を専攻する安原です。高校生の頃から地理か歴史に興味があったのでこの分野に進みました。しかし歴史地理学を必ず学びたいということでもなく、これからの学習の中で自分が地理学の中でもどの方向に進みたいかを模索するつもりです。

山田 莉子 大阪府出身の山田莉子です。趣味はスキーと旅行です。昨年度の実習旅行では、防災について調査をしましたが、他にも健康地理学など人の生活に密接した分野に興味があります。よろしくお願いします！

#### ■大学院生らの研究状況

2023年度の院生らの研究成果について報告します。

##### □図書

西村陽菜・小林夕莉・増田理子・伊藤海希・野々山祥平・長谷部依央・吉田巖嗣・西田凜太郎・大野かりん・福田大空・山西結月編『薬用作物栽培における課題・価値の再発見と地域社会での共有』文彩堂出版、2024年3月

##### □学術論文

重永 瞬「近代京都における北野神社境内の再編と都市周縁」『歴史地理学』65(2)、2023年3月、3-24頁

鈴木洋太郎「地図の視点はナビゲーションにどのように影響するのか—大学キャンパスマップの検討—」『地図 空間表現

の科学』61(1)、2023年5月、1-16頁。

神品芳孝「関東平野北西部の集村集落における屋敷林の変化」『地学雑誌』132(3)、2023年6月、197-216頁

鈴木洋太郎「『被災地』〈と〉生きる—発災12年が経過した宮城県石巻市でのフィールドワークから—」『空間・社会・地理思想』27、2024年3月、35-58頁

##### □学会発表

石川聡一郎「ザンジバル (Unguja 島) の水環境と人々の生活」第33回日本熱帯生態学会年次大会、2023年6月、オーテピア (高知県)

小池野々香「千葉県佐原の山車行事にみる運営と担い手の空間」日本地理学会秋季学術大会、2023年9月、関西大学

幸川 玲「交通事故現場における地蔵の建立—兵庫県阪神地区を事例に一」人文地理学会大会、2023年11月、法政大学

小林夕莉・森下航平・渡邊一輝・原川優羽紀・石川聡一郎・河本 大地「奈良県五條市西吉野町湯川における柿栽培の変遷—土地利用の変遷と担い手の声を中心に一」人文地理学会大会、2023年11月、法政大学

SHIBATA Shogo, Kimura Kenkado and East Asia: The Longing of an 18th-century Japanese Collector for the Unreachable Lands. The 8th Joint-Workshop on East Asian Studies: Fudan University—Kyoto University—City University of Hong Kong, Nov 2023, Fudan University, CHINA

堀川 泉・埴淵知哉・谷本 涼・中谷友樹「都市住民の食生活の満足度は何に規定されるのか—全国インターネット調査の統計

的分析に基づく考察」日本地理学会春季  
学術大会，2024 年 3 月，青山学院大学  
※共著・連名の場合，下線は地理学専修の学  
生・院生を示す。

#### ■2024 年度講義題目

今年度の地理学専修の授業構成について，  
ご報告します。

##### □講義

講義 I 地理学の成立と展開／米家泰作

講義 II 地理学の最前線／埴淵知哉・杉江  
あい

##### □特殊講義

大都市圏構造の変化／稲垣 稜（奈良大学）  
文化地理学からみるアジア・アフリカの  
人と環境／佐藤廉也（大阪大学）

産業集積論を中心に地域発展をめぐる論点  
およびその変化を理解する／立見淳哉  
（大阪公立大学）

鉄道廃止の地理学的研究／三木理史（奈良  
大学）

自然生態論 I／小坂康之（京都大学）

中国農村の生活空間／小島泰雄（京都大学）  
都市空間の形成史から学ぶ歴史地理学／山  
村亜希（京都大学）

紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったかー山  
村の歴史地誌／米家泰作

山村の歴史地理と近世近代史料／米家泰作  
地域統計・社会調査の理論と実践／埴淵知  
哉

地図で描く都市・地域の諸相／埴淵知哉  
質的研究とフィールドワーク／杉江あい

「被災地」における場所の喪失と再構築ー  
岩手県陸前高田市を中心に／杉江あい  
社会・文化地理学から考える「レジャーの空  
間」の光と影／杉山和明（流通経済大学）

湿潤変動帯の自然地理学とその応用として  
の斜面減災論／松四雄騎（京都大学）

「政治」を地理学するー政治地理学の方法  
論／山崎孝史（大阪公立大学）

##### □演習

演習 I A／米家泰作・埴淵知哉・杉江あい

演習 I B／同上

演習 II A／同上

演習 II B／同上

大学院演習 I／同上

大学院演習 II／同上

『信長公記』の地理を読む／山村亜希（京  
都大学）

地理学史を再考する／小島泰雄（京都大学）

##### □講読

英書講読 I／杉江あい

英書講読 II／埴淵知哉

##### □実習

地理学実習 I／米家泰作・埴淵知哉・杉江あ  
い

地理学実習 II／同上

※所属の注記がない教員は，地理学専修の  
専任教員です。

#### ■会員からの寄贈図書

近年，会員の皆様より，ご蔵書整理にとも  
なって地理学専修へ大口の寄贈図書をいた  
だくことが多くなってまいりました。昨年  
度は約 470 点の図書を受領しており，地理  
学専修としては，たいへんありがたいこと  
と篤く御礼申し上げます。これらの図書は，  
文学研究科図書館または地理学専修学生共  
同研究室に配置し，学生ならびにスタッフ  
の研究・教育に活用させていただきます。

さて本項では従来，ご寄贈いただいた図  
書を網羅的に記載しておりましたが，寄贈

図書の増加に伴い、本会報に掲載する寄贈図書リストのページも増加し、ひいては会誌郵送料にも影響するようになって参りました。つきましては、まことに心苦しいことですが、今号より、会員が執筆された図書を会員ご本人が寄贈されたもののみ掲載するように改めてたく存じます。ご寛容をいただきますよう、お願い申し上げます。

以下、2023 年度に受領した会員執筆図書を記載いたします。

- ・杉江あい『カースト再考－バングラデシュのヒンドゥーとムスリム』名古屋大学出版会, 2023
- ・Masahiko Togawa and Abhijit Dasgupta, eds., Kinship and Family among Muslims in Bengal. Manohar Publishers & Distributors, 2021
- ・阿部康久・土屋純・山元貴継編『論文から学ぶ地域調査：地域について卒論・レポートを書く人のためのガイドブック』ナカニシヤ出版, 2022
- ・澤柿教伸・野中健一・椎野若菜編『フィールドワークの安全対策』古今書院, 2020
- ・Yoshitaka Ishikawa ed., Japanese Population Geographies I -Minority Populations and Future Prospects. Springer, 2023
- ・Yoshitaka Ishikawa ed., Japanese Population Geographies II -Minority Populations and Future Prospects. Springer, 2023
- ・滝波章弘『地域が創る「あさか舞」－福島県郡山ブランド米の産地像』東北大学出版会, 2023

- ・金田章裕『散村と屋敷林－砺波平野の分散型都市環境』ナカニシヤ出版, 2023
- ・山田誠『隠された標的－戦時改描図の世界－』海青社, 2023
- ・米家泰作『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』古今書院, 2024
- ・山本功編『テンセン vol.1: タメンタイギャラリー－鶴見町ラボ記録集』
- ・山本功編『テンセン vol.2: タメンタイギャラリー－鶴見町ラボ記録集 2023-1』
- ・山本功編『テンセン vol.3: タメンタイギャラリー－鶴見町ラボ記録集 2023-2』
- ・野間晴雄編著『47 都道府県・城下町百科』丸善出版, 2023
- ・金田章裕『道と日本史』日本経済新聞出版, 2024
- ・『第 8 回京都大学-香港城市大学-復旦大学東アジア人文研究学生討論会報告書』, 2024

## 事務局から

### ■2023 年度会計報告

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

#### 【資金会計】

##### <収入>

|        |         |
|--------|---------|
| 年会費    | 66,514  |
| 寄附金    | 5,000   |
| 利子     | 0       |
| 前年度繰越金 | 312,163 |
| 計      | 383,677 |

##### <支出>

|          |         |
|----------|---------|
| 運営会計への振替 | 143,274 |
| 郵便振替手数料  | 4,817   |
| 次年度への繰越  | 235,586 |
| 計        | 383,677 |

#### 【運営会計】

##### <収入>

|           |         |
|-----------|---------|
| 資金会計からの振替 | 143,274 |
| 秋季懇親会会費*  | 0       |
| 春季懇親会会費   | 37,000  |
| 計         | 180,274 |

##### <支出>

|           |         |
|-----------|---------|
| 秋季懇親会*    | 0       |
| 講師交通費     | 43,660  |
| OB 交流会経費  | 0       |
| 春季論文発表会経費 | 54,000  |
| 会報等印刷費    | 12,500  |
| 会報製本費用    | 0       |
| 通信・文具等費   | 68,600  |
| 弔電・供花等    | 1,514   |
| 計         | 180,274 |

\* 開催なし

### ■会費納入のお願い

1 年あたり 1,000 円を目処として、会員の方々に談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。納入の際は、郵便振替または銀行振込をご利用ください（本会報を郵送で受け取られる会員には「郵便振替用紙」を同封しています）。

みずほ銀行出町支店（普）

1143293 チリガク ダンワカイ

（チリガクとダンワカイの間にスペースあり）

郵便振替

01080 4 21457 地理学談話会

### ■訃報

前号掲載以降、逝去の報をいただいた方は、下記の通りです。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

大脇 保彦（1957 卒）

坂本 英夫（1958 卒）

末尾 至行（1952 卒）

寺阪 昭信（1964 卒）

## ■編集後記

本談話会報では、三本の寄稿を掲載することが慣例のようになっております。今号では、そのうちの一つを卒業論文の成果の紹介としてみました。

本地理学専修に提出された卒業論文は、著者が大学院に進学する場合は、研究成果を公表する機会があります。しかし著者が大学を離れ、社会人として活躍される場合、優秀な卒論であっても、その内容を知るのは著者と教員だけということになりがちです。そのような論文の内容を紹介する機会にしたいと思い、談話会に入会されたばかりの卒業生に寄稿を依頼しました。

年に1回だけの発刊ではありますが、会員の皆様より寄稿のご提案がありましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

なお、前々号より触れておりますように、運営の事務的な作業の軽減、ならびに印刷費・郵送費の節約を目的として、談話会報の送付や事務局からのお知らせがメールで差し支えないかどうか、各会員にお伺いして参りました。今号におきましても、メールでの発刊のお知らせにご協力をくださっている会員の皆様に、お礼申し上げます。また、これまで郵送で連絡を受け取られている会員の皆様におかれましても、以後はメールで良いとされる場合は、ぜひその旨を事務局までお知らせください。どうぞよろしくお願い致します。

(米家記)

京都大学地理学談話会 会報 第35号

発行日 2024年6月18日

発行者 京都大学地理学談話会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部地理学教室内

TEL: 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

京都大学地理学談話会ウェブサイト

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-danwakai/>

会報バックナンバー (京都大学学術リポジトリ「紅」)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/259238>